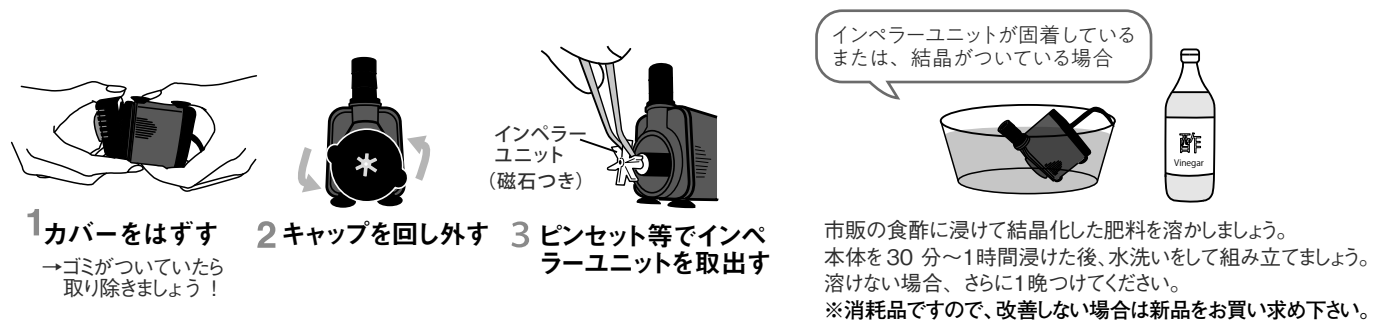


9.循環ポンプのメンテナンス

！ 循環ポンプの分解は、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。感電の危険性があります。
注意

栽培終了時、または循環ポンプが作動しない時は、分解して掃除してください。



10.その他オプション品

ホームハイポニカ303専用補水器



補水が手間という方におすすめ

補水器と水道をホースでつなげることで、自動的に補水が行えます。
※ 水に液体肥料を投入の際は、別途肥料濃度メーターが必要となります。
※ 補水器にはホームハイポニカ303本体は付属しません。

肥料濃度メーター Dist4



液肥水の肥料濃度を測定

校正のための標準液が付属しています。
ホームハイポニカ本体内の液体肥料は植物の生長具合や気候によって大きく変化する場合があります。より厳密な植物の栽培を目指す方には肥料濃度メーターによる肥料濃度チェックをおすすめします。

テトラ26℃ミニヒーター



冬場の栽培を可能に

液肥水の水温を26℃前後に自動調節するヒーターです。
寒冷地や冬場などで作物を育てる際、水温を高めるために使用します。
仕様：AC100V 50/60Hz、100W、安全カバー付き。

ミニトマト ネネ 12粒入り



甘くて育てやすいミニトマト(赤)

トマトの中でも特に人気が高く、非常に甘くておいしいミニトマト「ネネ」の種です。
単為結果と呼ばれる受粉をしなくても実がなるという特徴があり、家庭菜園に向いた品種です。

お買い求めはハイポニカショッピングサイトもしくは、
お買い求めいただいた販売代理店まで



／ホームページQRコード

検索

ホームハイポニカ

故障かな？と思ったら

こんな時	調べるところ	処理の仕方
液肥水を 汲み上げない	給液吐出部が循環ポンプから外れていませんか？	給液吐出部を循環ポンプに接続しなおしてください。
	電源プラグがコンセントから外れていませんか？	電源プラグをきちんとコンセントに差し込んで下さい。
	循環ポンプの吸水部に根やゴミが詰まっていませんか？	電源プラグをコンセントから外し、循環ポンプのインペラーユニット部分を掃除してください。
	循環ポンプのインペラーユニットに液体肥料が固着していませんか？	電源プラグをコンセントから外し、循環ポンプのインペラーユニット部分を掃除してください。
装置から 水が漏れる	水位調節管に根が詰まっていませんか？	水位調節管から根を出してください。
	液肥槽の水位が高くないですか？	うきを見て「満水」以下になるように管理しましょう。
	装置が傾いていませんか？	水面を見て水平になるように設置しましょう。
	水位調節管の水位の高さは高くないですか？	本説明書p5の「水位調節管の取扱い」をご確認下さい。

お問合せは
こちらまで

0800-888-8787



／ホームページQRコード

検索

ホームハイポニカ

製造元

協和株式会社ハイポニカ事業本部
大阪府高槻市郡家新町 85 番 1 号

HYPONICA

取扱説明書

水耕栽培キット

ホームハイポニカ® 303



果菜や葉菜・
花の栽培に

土を使わないミニ菜園

誰でも簡単に栽培できて
育てる楽しみがあって
採りたてのおいしさを味わえて

このたびは、ホームハイポニカ303をお買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前に、正しく安全にお使いいただくため、必ずこの「取扱説明書」を最後までお読みください。
また、栽培については、別冊子「栽培のしおり」をよくお読みください。
なお、栽培開始後もいつでも見られるようお手元大切に保管してください。

目次

- 1.ホームハイポニカ303の特長
- 2.本装置の設置について注意事項
- 3.各部の名称
- 4.栽培の流れ
- 5.装置の組み立て手順
- 6.各部の取扱い方法

- 〔1〕給液調節器の取扱い
- 〔2〕水位調節管の取扱い
- 〔3〕うきの取扱い

7.液肥水の補給

8.栽培終了後の排水方法

9.循環ポンプのメンテナンス

10.その他オプション品

KYOWA

安全上のご注意

当社製品を正しくお使いいただくための注意事項です。人体の危害と財産への損害を未然に防ぐために、以下のことを必ずお守りください。

- ⚠

電源を入れたままで、液肥槽内に手を入れたり、循環ポンプに触れないでください。(感電の恐れあり)
- ⚠

電源は交流(AC)100Vのみご使用ください。(感電、発火の恐れあり)
- ⚠

電源プラグやコンセント部、循環ポンプのコード結合部は濡らしたり、濡れた手で触らないでください。(感電、発火の恐れあり)
- ⚠

本体を改造しないでください。(感電、発火の恐れあり)
- ⚠

電源プラグやコンセントの汚れやほこりは定期的に取り除いてください。(発火の恐れあり)
- ⚠

付属のハイポニカ液体肥料は石灰硫黄合剤と混合すると有害ガスが発生する恐れがあります。危険ですので混合は絶対に行わないでください。

使用上のご注意

- ⚠

注意

付属のハイポニカ液体肥料は有害なものではありませんが、もし誤飲などした場合は医療機関の診断を受けてください。
- ⚠

注意

付属のハイポニカ液体肥料はお子様の手の届かないところに保管してください。
- ⚠

注意

付属のハイポニカ液体肥料は直射日光や高温の場所を避けて保管してください。
- ⚠

注意

付属のハイポニカ液体肥料 A 液・B 液を原液のまま混合しないでください。肥料成分が結合して沈殿し、使用できなくなります。
- ⚠

注意

本品の循環ポンプは水中専用です。必ず水中でセットし、空運転はしないでください。(誤作動、故障の恐れあり)

取扱いのご注意

- ⚠

注意

各部とも耐久性・耐光性に優れた樹脂を使用しておりますが、無理な力を加えたり、高温下に放置しておくと変形する場合がありますのでご注意ください。
- ⚠

注意

作物の生育には水の流れが必要です。栽培中は循環ポンプを常時運転させてください。
- ⚠

注意

他社肥料をご使用されますと、作物の生育に影響をおよぼす恐れがありますので、ハイポニカ液体肥料をご使用ください。ハイポニカ液体肥料の追加購入は当社ウェブサイトをご利用ください。

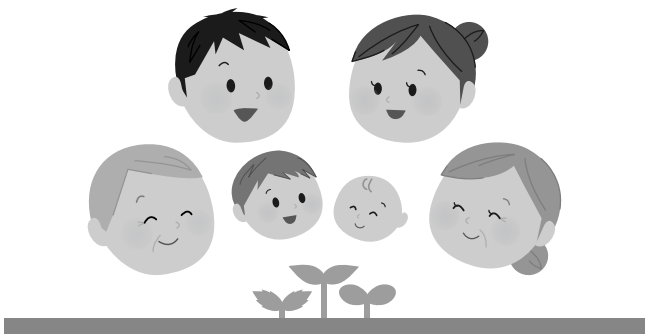
ホームハイポニカeショップ]
https://homehyponica.net/

1.ホームハイポニカ303の特長

- 品質の優れた健康な果菜類(トマト・キュウリなど)や葉菜類(リーフレタス・シュンギクなど)、花類がつけられるようにシステム化されています。肥料の吸収もよく、栄養がゆきわたって健康体に育つので、作物の糖度が高くビタミンも豊富です。
- 管理はとても簡単です。作物にとって一番大切な根を最良に保つための操作は、給液・水位ともに指定の数字に合わせるだけで、むずかしい操作はありません。
- 肥料のロスがありません。ホームハイポニカ液体肥料を使用することで根に吸収されやすく、循環システムにより肥料のロスがなく経済的です。
- 一年中栽培が楽しめます。温室内での育成により四季を通じた栽培が楽しめます。冬季は液肥加温ヒーター(別売)を使用することで、よりバラエティーに富んだ栽培が可能です。
- 次々にさまざまな作物を栽培できます。土の栽培と異なり、ホームハイポニカでは同時にさまざまな作物を作ることが可能です。同じ場所に同じ種類の作物を連作しても障害がありません。
- 軽くて丈夫です。栽培器具類は、農業用で実績のあるものを使用しています。電気製品・循環ポンプなどは、すべて既定の型式承認(マーク、トラッキング対策)を得たものを使用しています。

2.本装置の設置についての注意事項

- 設置場所は日当たりのよい場所を選びましょう。南または東に面した日当たりのよい場所が望ましい場所です。
- 電気の配線、水の給排水の都合もあわせて考えてください。
- 設置場所が凸凹になっていたり、傾斜していると、良好な栽培ができません。水平な場所に設置しましょう。
- 本装置では水を使用しますので室内への設置の場合、ビニール等の敷物をするなど水ぬれにはご注意ください。



3.各部の名称

名称	数量/材質	形状/寸法(mm)
栽培槽	1個	
液肥槽	1個	
果菜用マルチパネル	1個	
葉菜用マルチパネル	1個	
給液部フタ	1個	
排液部フタ	1個	
排水栓	1個	
うき	1個	
水位調節管セット	1組	
栽培鉢	2個	
鉢カバー	2個	

名称	数量/材質	形状/寸法(mm)
100ml計量カップ	1個	
循環ポンプ	1台	
給液吐出部セット	1組	
果菜用培地(黄・緑)	4組	
葉菜用培地	1枚(300個)	
液体肥料	1組	
栽培のしおり	1冊	
取扱説明書	1冊	

4.栽培の流れ

1 内容物・説明書の内容チェック

- ・『栽培のしおり』
- ・『取扱説明書（本誌）』

内容物は『取扱説明書』P.2 を参照

★栽培をスタートされる方はあらかじめ、種まき～芽出した苗を準備しておくのがオススメです（『栽培のしおり』参照）

2 (装置の洗浄)

2 作目以降の場合、栽培槽を洗浄して汚れを落とす

3 設置場所の決定

- ☒ 平らな場所
- ☒ 十分な光の当たる場所（例）直射日光の場合：果菜類…約 6 時間以上、葉菜類・花…約 4 時間以上
- ☒ 風通しの良い場所
- ☒ お手入れのしやすい場所

4 水平度チェック

液肥槽を設置し、30ℓ 水を入れて水平に設置されているかを確認する。

※装置が傾いている場合、生育のムラや液漏れの原因となります

※水面を見て 2～3 ミリの傾きは問題ありません

※投入した水は引き続き栽培に使うので、捨てずに装置を組み立ててください

5 装置の組み立て

右ページ「装置の組み立て手順」を参照

6 水位・給水量の調整

水位の調節は p5「水位調節管の取扱い」を参照

給水量の調節は p5「給液調節器の取扱い」を参照

（水位調節管の目盛り：果菜類…1、葉菜類・花…3）
（給液調節ダイヤル：果菜類…1、葉菜類・花…4）

7 循環ポンプの始動

⚠ 循環ポンプは水が入っている状態で電源を入れてください。（空運転は故障の原因になります）

8 水と液肥の追加

④ 水平度チェックで投入した水に加えて、栽培作物に合わせた水と液肥を追加する。

それぞれの投入量は p6「栽培スタート時の給液」を参照

（追加する水量：果菜類…20ℓ（合計 50ℓ）、葉菜類・花…15ℓ（合計 45ℓ））
（液肥の投入量：果菜類…100 ml、葉菜類・花…90 ml）

投入後、10 分程循環させると装置全体に液肥が拡散します

9 栽培スタート

栽培については『栽培のしおり』を参照



5.装置の組み立て手順



注意 循環ポンプは組み立てが完了し、水が入っている状態で電源を入れてください。（空運転は故障の原因になります）

液肥槽を設置後、栽培槽を重ねる

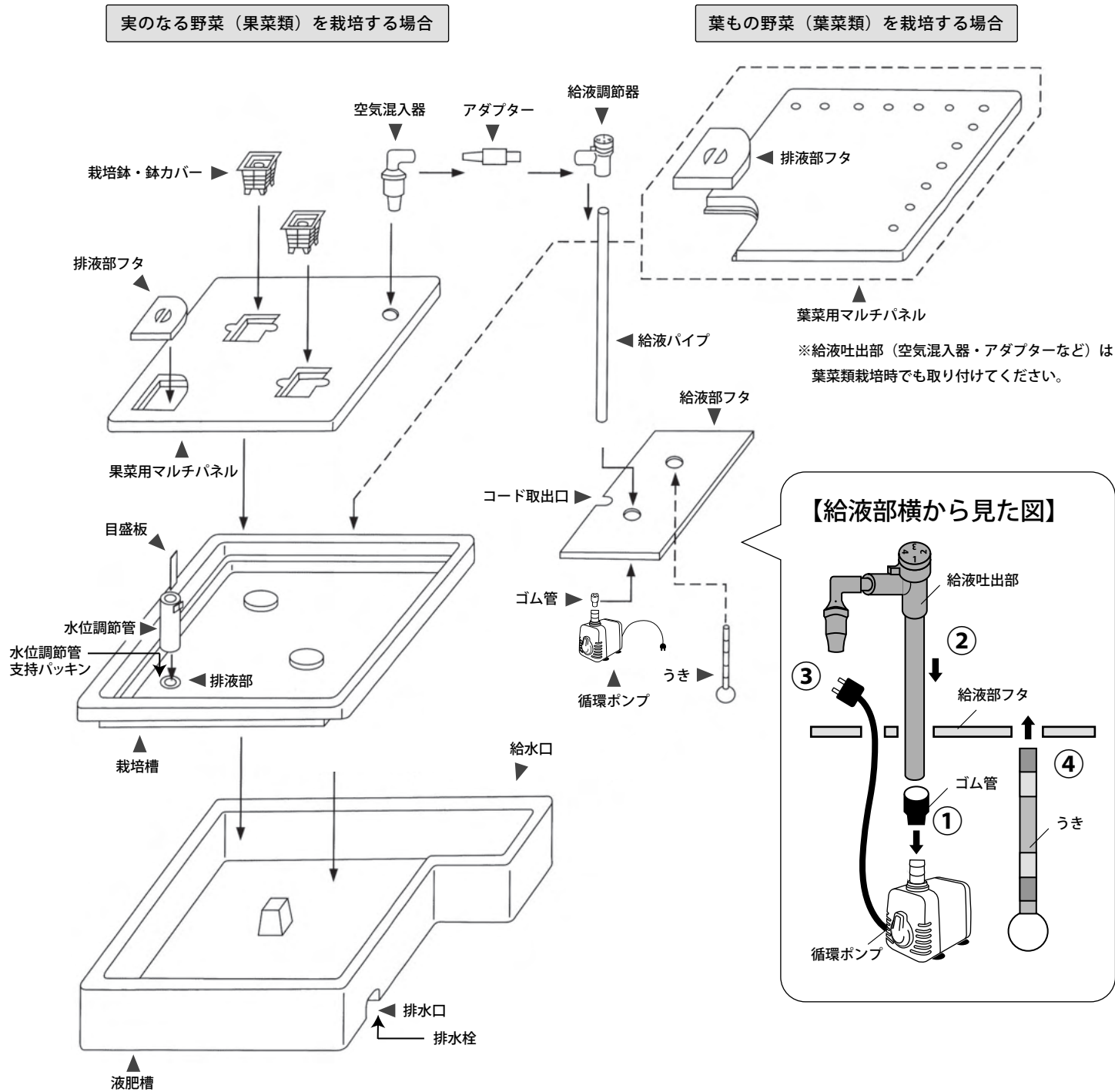
給水口が右奥としたとき、排液部が左手前となるよう、対角線上に設置。

給液部をセット

- ① 給液吐出部セットのゴム管を取り外し、循環ポンプの吐出部分に取り付け。
- ② 給液吐出部を給液部フタの上から差し込み、循環ポンプと接続する。
- ③ 循環ポンプのコードを給液部フタのコード取出口から出す。
- ④ うきを給液部フタの下から差し込む。（ポンプと接触しないように注意）

マルチパネル・水位調節管をセット

排液部に水位調節管をセット。
栽培作物に応じたマルチパネルをセット。
果菜類の場合は、マルチパネルに栽培鉢をセット。
※水位の調節は p5「水位調節管の取扱い」を参照
※栽培鉢・鉢カバーの組み立ては『栽培のしおり』参照



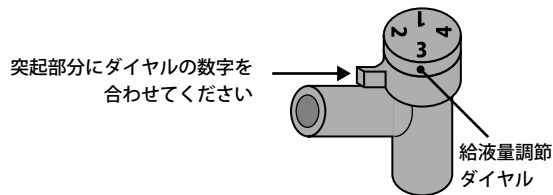
6.各部の取扱い方法

栽培については別冊「栽培のしおり」をよくお読みください

1. 給液調節器の取扱い

給液調節器は上部のダイヤルを回すことで給水量を調節することができます。

- 給液調節器のダイヤルをまわして、右図のように、矢印部分に数字を合わせてください。
- 数字が大きくなるに従い給水量が多くなります。



注 1) ダイヤルの変更は以下の操作変更スケジュールをご参考ください。
注 2) ダイヤルを回す時は、給液調節器本体をしっかり押さえ目盛を変更してください。

【実のなる野菜(果菜類)の場合】

栽培日数	0	10	17	24	31	45	59
給液ダイヤル	1	2	3	4	5	6	・
水位調節管	1	・	・	・	2	3	4

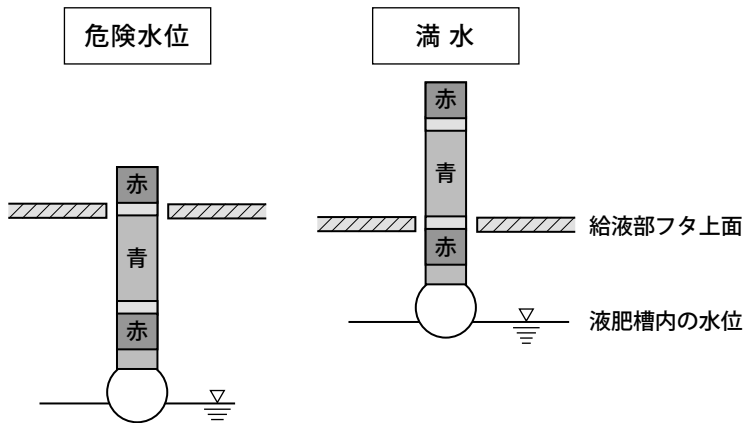
※種をまいた日を 0 日目として数えます。

【葉もの野菜(葉菜類)・花類の場合】

給液量調節ダイヤルは「4」、水位調節管は「3」の位置で栽培を行います。(栽培期間中の変更はありません)

3. うきの取扱い

うきは液肥槽内の水位に合わせて上下します。うきの青色部分が給液部フタ上面にかかる状態は、液肥槽内に十分液肥水があることを示します。



液肥槽内の水量が減少すると左図「危険水位」のように、うきの青色部分が給液部フタに隠れて見えなくなり、赤色部分しか見えなくなります。

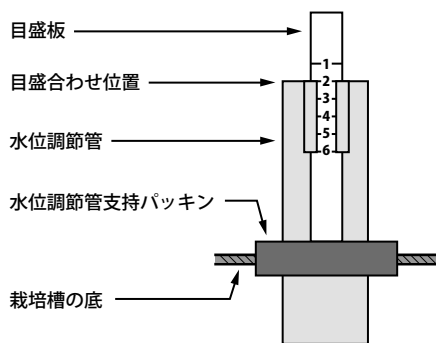
このような状態から補水をする場合、左図「満水」のように青色部分下部が見えはじめるまで液肥槽に水を加えてください。同時に液体肥料を各々 35ml 加えるとちょうど良い濃度になります。

2. 水位調節管の取扱い

水位調節管を操作することで栽培槽の水位を変更することができます。

排水部フタを取って、水位調節管を上下に動かしてください。水位調節管を上げれば栽培槽内(根の張る所)の水の深さは深くなり、水位調節管を下げれば栽培槽内の水の深さは浅くなります。

水位調節管の調節は目盛合わせ位置に目盛版の数字が合うように水位調節管を動かしてください。

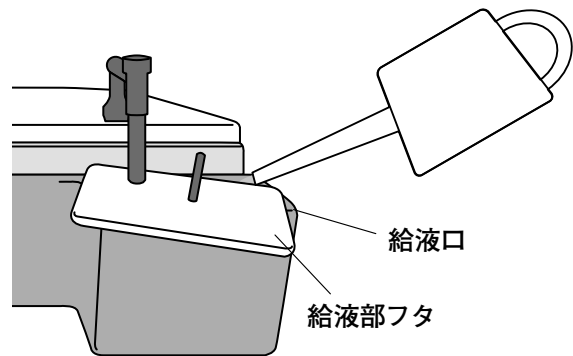


※図は水位「2」の状態です

7.液肥水の補給

栽培スタート時の給液

- ①「**③**水平度チェック」で 30ℓの水を入れ、水平度をチェックし、設置場所を決定する。
- ② 循環ポンプの電源コードをコンセントに差し栽培槽に水を送る。
- ③ さらに栽培植物に応じた下記の水と液肥を投入する。
- ④ 10 分程循環させると装置全体に液肥が拡散します。



	③の水の投入量	最初の液肥の投入量
果菜類	20ℓ (合計 50ℓ)	A・B 液それぞれ 100 ml
葉菜類	15ℓ (合計 45ℓ)	A・B 液それぞれ 90 ml

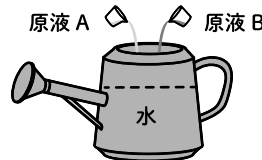
液肥水の作り方

最初の給液後は、うきを見て液肥水が減った分補給していきます。

水の量に応じた液体肥料 A・Bをそれぞれ500倍に薄めて、液肥水を作ります。

(付属ビーカーをお使いください)

【液肥水の作り方イメージ】



※原液だけで混ぜると化学反応で成分が結晶化してしまうので水の中へ原液を投入してください。

【投入量早見表】

水の量	A 液	B 液
5L	10 ml 	10 ml
10L	20 ml 	20 ml
45L	90 ml 	90 ml

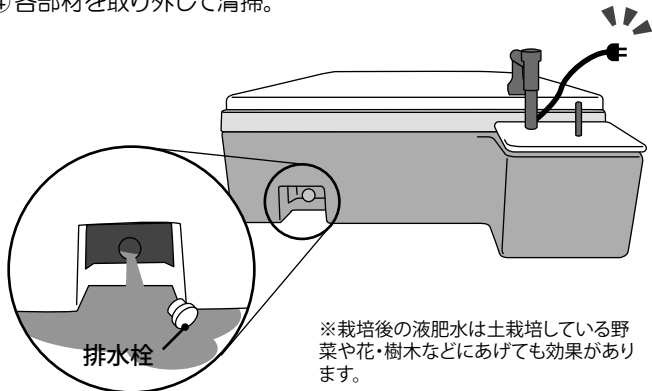
※ 液体肥料は直射日光の当たらない涼しい場所で保管してください。

※ 液体肥料を誤飲しないよう、お子様の手の届かない場所に保管してください。

8.栽培終了後の排水方法

排水方法①

- ① 循環ポンプのコードのプラグを電源コンセントからはずし、液肥槽の排水栓を抜いて排水する。
- ② 液肥槽の水がある程度排水できたら、水位調節管を抜く。
- ③ 栽培槽の水も液肥槽へ流し、排水する。
- ④ 各部材を取り外して清掃。



※栽培後の液肥水は土栽培している野菜や花・樹木などにあげても効果があります。

排水方法②

- 据付場所で排水が行えない場合は、給液吐出部の空気混入器を取り外してアダプターに市販のホースをセットして排水してください。ホースのセット後、循環ポンプのコードのプラグをコンセントに差し込み、給液量調節ダイヤルを「4」の状態にして排水してください。



なお、循環ポンプの能力はあまり大きくないので循環ポンプより高い位置やあまり遠い所への排水はできません。

※水が電源コンセントにかからないように気をつけてください。

※装置の清掃を行う場合は、別紙『栽培のしおり』を参考に行ってください。